

【学校教育目標】 豊かな心と知性にあふれ、たくましく行動できる子どもの育成

【学校経営の重点】 学校教育目標の達成に向けて、教職員が一体となり、子どもが「自分を、学校を、地域を誇りに思う」活力ある学校づくりに向け、「考える子ども」(知)「やさしい子ども」(徳)「すこやかな子ども」(体)のバランスのとれた児童の育成をめざす。

1. 確かな学力の育成～基礎・基本の定着と思考力・表現力・判断力の育成
2. 豊かな心の育成～友愛の心の育成
3. 健やかな体の育成

【児童の実態】 ○個人差は大きいが下位層が減少している ○算数科において、自分の考えと友だちの考えを比較しながらノート整理ができ始めている ○既習事項を使って、課題に対して自分の考えを表現できない児童がいる ○説明する力に欠ける～語彙力や文章構成する力が不足 ○内容の読み取りが弱い～表面的な読み方をする ○家庭学習の習慣が徐々に身につけてきたが前学年学習内容が定着しておらず当該学年で学習につまずく児童がいる ○活用問題に苦手意識を持つ児童がいる

取り組みの評価内容		1学期自己評価	2学期の取り組み
1. 個に応じた指導及び南小タイムの充実	○単元末テストの目標達成平均点～全学年 85 点以上達成率 70%以上<<下位層(60 点以下) 5%未満>>	正答率は国 85.3 算 85.0 で達成 達成率は不十分	・授業の内容が定着するように、その日に学んだ内容を家庭学習で行う。 ・4～6年は習熟度別学習を行い、下位層の指導を丁寧に行う。
	○各種学力調査及び全学年対象学力標準調査(算数) 全国・大分県平均以上(昨年度よりアップ)	1月実施	・類似問題を授業の中で行う。
	○「南小タイム」の計画的な実施国語(弱点克服) 算数(活用問題)	全学年実施	・継続して取り組む。
	○テストや家庭学習の間違いのやり直し 100%		・間違いをそのままにせず、必ず全員が間違った問題をやり直す。
	○学校図書館活用 年間読書数 170 冊以上 未読0をなくす	全校平均 57 冊 未読0はなし。	・継続して取り組む。
2. 「校内研究」(「思考力・判断力・表現力を育む算数科学習のあり方」書く活動を中心に)の充実を通じた授業力の向上	○「学校の勉強がよくわかる」児童 95%以上	92.2%	・継続して取り組む。
	○新大分スタンダードの授業「課題」「まとめ」等を位置付けた問題解決型の授業 95%以上	92.3%	・継続して取り組む。
	○「板書とノートの一体化」(字や書き方)を指導をしている	96.2%	・継続して指導する。
	○授業の中で書く活動を 2 回取り入れた言語活動の工夫(「書くことができる」児童 95%)	83.3%	・「振り返り」を書くための時間を確保するためにも、45 分の授業構想をしっかりとっていく。
3. 家庭や地域等との連携による基本的な生活習慣の定着	○家庭学習(学年×10分+10分)の定着 95%以上	保護者 72.9% 児童 80.6%	・学年統一した家庭学習を行っていく。
	○毎朝朝ご飯を食べる児童 100%	93.3%	・通信で家庭にも呼びかける。
	○挨拶ができる児童 95%以上	88.5%	・継続して取り組む。
	○無言そうじ 100%	90.2%	・継続して取り組む。